

二〇二三年度 一般選抜 学力検査(国語)

国語総合 (近代以降の文章) ・ 現代文B

解答番号

1

〜

29

一 次の文章は、須藤孝也『人間になるといふこと——キルケゴールから現代へ』の一部分である。これを読んで、後の問い（問1～9）に答えなさい。

現代では一般に、⁽¹⁾人文学よりも自然科学に期待する人が多いようである。これに関しては、様々な電化製品など、学問としての科学よりも、それを商品に応用した科学技術が与える **A** によるところが大きいと思われる。いずれにしても自然科学は、商業や経済、軍事と連動しているから政治からも大きな後押しを得られる。身体的な快不快や、心理的な喜怒哀楽を超えたところで意味や価値について考え、理念や真理を探究する伝統に乏しい我が国では、とりわけ自然科学に期待する傾向が強くなる。

自然科学は形而下^{けいじか}の諸事象について、普遍的に妥当する法則を見いだそうとするものである。だがこの法則はあくまで形而下の現象についての法則であつて、精神のレベルを含めた世界で起きることすべてについての法則ではありえない。形而上の問題と形而下の問題の両方があることを知り、その上で科学が形而下の問題を扱うことを知り、それと同時に人文学に触れることによって形而上の問題についても認識を深めるのであれば理想的である。しかし後者についての関心と、それに割く時間と労力が減ってしまうとすれば、それは知的後退、あるいは少なくとも知的偏向と言わなければならない。

自然科学は生産性が高いが、人文学は生産性が低いといった捉え方をする人も少なくないようだ。しかし自然科学が生み出すものと、人文学が生み出すものは、同一の基準で測ることができない。前者を図る基準で後者を図っても意味がないのである。人文学は、様々なありうる価値についての理解を深めるのに役立つ。様々な価値を見いだす私たちの目を洗練するのである。洗練されていない目は様々な価値を見落としているのであり、そうした目は人文学を学ぶことによつて身につけるほかないのである。もし人文学の知がこの世界から消え去るとしたら、それはどんな世界であろうか。それは「人間になる」⁽²⁾ことがひどく困難になる世界であろう。厳密にはそのような世界はありえないだろうが、しかし、人間になると企てても、何ら参考にできる知が入手できないがために、その企てがほとんどシンテン⁽⁷⁾しないような世界はありうる。ありうるどころか、現代世界はますます

そちらの方に向かってる。

現代に生きる多くの人々は、自然科学がある限界のもとにあることを忘れるのみならず、形而上の問題について考究する人文学の知にもほとんど精通していないため、形而上の知に関し信憑性しんぴやうせいを測ることが上手にできなくなっている。その結果、「一つに決まる正解」と「答えのなさ／多様な答え」との間で、混乱している人が少なくないように思われる。ここで言う「正解」は自然科学的な認識、社会科学的な認識、学校が普及させる認識を指し、「答え」は自分の人生を納得して生きるために必要な形而上学を指す。それに関し、これまでにどのような知が形づくられてきたのか知らない人々は、各々、偶然目にしたもののなかからよさそうなものを **B** に選び、採用する。真理を求めて思考し、それしかないと判断して選んでるわけではないから、他の人が他の選択肢を採用していても、優劣をつけることができない。そしてそれを「平和的解決」あるいは「寛容」だと解している。他方、形而下の問題に関しては、科学的に「客観的に」一つの「正解」が存在すると考えている。多くの現代人が、この「一つの正解」と「答えのなさ／多様な答え」の二元世界3)を生きているのではないか。

単独性、主体性、内面性、倫理、精神、人格、意味、価値、(形而上学の)真理、これらについて科学は問わないし、当然答えることもできない。科学は、そうした事柄に関する知の一切を各人に委ね、その上で活用されるのを待っている。活用する方法について科学は指定しない。人を救うために活用されようが、大量破壊兵器に活用されようが、科学は何も言わない。

だが科学的知見を活用するために必要な、価値や理念、真理といった形而上の問題について思索し、様々な考え方をたたかかせ、最善のものを見極め、それを社会的にシェアするという伝統がこの国にはない。形而上の問題については考えてもいいし、考えなくてもいい、考えた場合はどれでも自分が「好き」なものを選べばいいという状況ができあがっている。形而上の問題は「答えがない問題」であり、それに関しては「多様な考え方があり」、それが現在この国に生きる多くの人々にとっての「常識」であろう。正しさについて考究しないのだから、どれが正しいのか判定できるはずもない。間違った考えについても、それは間違っているとさえ「争い」になるから言わない。争いは単に関係の破断を意味するから、言わないでおく。この国の人々は、

形而上学的には、絶対的に正しい一つの考え方があるとはせず、様々な考え方を並び立たせておく相対主義の立場に立っていると云えよう。

相対主義者は、絶対的な唯一の「真理」は存在しないと考えている。こうして彼らは「真理」や「誤謬」のことは気にせず、自分が好む考え方を何らのチェックもなしに採用する。そうして考え方が似た人々の集団に帰属し、そのなかで同語反復的に賛成し合い、イメージを膨らませていく。真理も非真理も存在しないのだから、自分たちが間違っているなどとは思いもしない。むしろ考えを共有する他者がいると安心する。

自然科学への⁽¹⁾ソボクな信頼と、形而上学の貧困ないし無秩序、これが現代の状況であろう。だが個人においても社会においても意味や価値をめぐる形而上学の問題は残存する。意味や価値が不在のままでは人は何かをすることができないから。当然問いに対応した「答え」が必要となる。

そうした状況のなか、この貧困と無秩序の空間に自然科学を原型とする世界観がシンニウしてくるといふ事態が生じる。ここに立ち現れるのが自然主義⁽⁴⁾である。自然主義は、物質の原理を精神の領域に敷衍^Xし、自己保存や種の保存、様々な能力の増大と繁栄を目的とするものとして精神を理解し、それに価値や意味を見いだす。こうして「答え」のない状況、あるいは多様な答えがあるという形而上学の状況は一つの答えがある状況へと変わる。

この自然主義は、形而上学の特殊な一つの形態であるにすぎないのにもかかわらず、自然科学がもつと考えられる普遍性を自らにも認めることで、その他の形而上学よりも客観的に正当なものとして自らを理解する。自然をどう理解するのかによって自然主義にも様々な形態がありうるが、時にそれは自然淘汰^Yの原理に立脚しつつ、あらゆる問題を力（時に暴力となる）によって解決しようとすることもある。

他方、相対主義的に解された形而上学の空間において、何らかのイデオロギーが採用されることもある（ここでは、首尾一貫性や一般的に事実と認識されるものとの整合性を欠くために、形而上学として認め得ないものをイデオロギーと呼ぶ）。相対主義

では、絶対的に正しいと言えるような一つの形而上学は確定できないと考えられる。だがこれは、いかなる形而上学も採用してはいけないということの意味しない。もちろんその他の形而上学とともにではあるが、様々な形而上学が採用可能と考えられるのである。誰もが形而上学の問題を抱えて生きている以上、当然、数ある形而上学のうちのいくつかは魅力的に見えることがある。だが形而上学として認めうるかどうかを精査するのは相当の考察を必要とする。多くの者はその作業を深めずに、イデオロギーを採用してしまう。もちろん彼⁽⁵⁾はそのイデオロギーを客観的に絶対的に正しい真理と認めるがゆえにそれを採用するのではなく、とりあえず自分に限って、自分にとつてのものとしてそれを採用することにする。だが彼(女)はそのイデオロギーに、同様に魅力を感じる他の人々にも出会うであろう。そうするなかで彼(女)はそのイデオロギーが「一般性」(普遍性)よりも小さな集合、様々な一般性が考えられる)をもつことを知るのである。だが厳密に思考することがない人間にとっては、この一般性と普遍性の境目は **C**。一般性を拡張することで普遍性へと転化するように思われる。そうした期待をもって、同じように考える人がもつと増えることを願うであろう。

(須藤孝也『人間になるといふこと——キルケゴールから現代へ』による。)

問1 傍線部(ア)～(ウ)と同じ漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、
1
～
3

(配点6点)

(ア) シン|テン
1

- ① 書類をメールに|テン|プする。
- ② テン|ラン|会に|出品|する。
- ③ 燃料を|ジュウ|テン|する。
- ④ きらびやかな|ゴ|テン|に暮らす。
- ⑤ 新しい|薬|局の|テン|ポを|建設|する。

(イ) ソ|ボク
2

- ① 絵の|ソ|ヨウがある。
- ② 企|みを|ソ|シする。
- ③ 必要|な|ソ|チを取|る。
- ④ |ビル|の|テイ|ソ|式を行|う。
- ⑤ |ソ|エン|にな|った|友

(ウ) シン|ニ|ュウ
3

- ① シン|ゲン|地の|調査|を行|う。
- ② 成|績|フ|シン|にお|ち|い|る。
- ③ 文|化|的|な|シン|リ|ャク|が|問|題|になる。
- ④ シン|サ|の|結|果|を|待|つ。
- ⑤ 医|師|の|シン|ダン|を|聞|く。

問2

空欄

A

〜

C

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①〜⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、

4

〜

6

。

(配点6点)

A

4

- ① 即効性
- ② 流動性
- ③ 信頼性
- ④ 利便性
- ⑤ 確実性

B

5

- ① 積極的
- ② 社会的
- ③ 恣意的
- ④ 本質的
- ⑤ 強制的

C

6

- ① 絶対性をもつ
- ② 明瞭には見えない
- ③ 整合性を欠く
- ④ 集団性に帰属する
- ⑤ 他者との共有を必要とする

問3 傍線部X・Yの語の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、7・8。

(配点4点)

X 敷衍

7

- ① おし広げること
- ② 根拠を求めること
- ③ 生み出すこと
- ④ 精通させること
- ⑤ 委ねること

Y 淘汰

8

- ① 時間の流れの中であらゆるものが純化されていくこと
- ② 状況に合わせて進化に必要なものが抜け落ちること
- ③ 進化の過程の中でそれまでの性質を一掃すること
- ④ 人知を超えた力によって性質をふり分けること
- ⑤ 優れたもの、良いものを取り不要なものを捨てること

問4

傍線部(1)「人文学よりも自然科学に期待する人が多いようである」とあるが、それはなぜだと筆者は考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、9。(配点5点)

- ① 自然科学は政治の大きな後押しを得ており、多くの人は、一定の基準で測ることができず正解のない人文学よりも考え方として優れていると考えているから。
- ② 科学技術への応用範囲が広い自然科学は政治的な支えを得やすく、多くの人は、理念や真理を探究する人文学よりも生産性が高いと考えているから。
- ③ 身体的な快不快や心理的な喜怒哀楽といった法則性をもたない人文学よりも、普遍的な法則を見いだせる自然科学の方が信用できると多くの人は考えているから。
- ④ 形而下の現象についての法則を確立する自然科学の方が、精神のレベルを含めたすべてについての法則を見いだす人文学より理解しやすいと多くの人は考えているから。
- ⑤ 形而上の問題を扱う人文学よりも、形而下の問題を扱う自然科学の方が、学校教育の中で時間と労力を費やしてきた結果を活用できると多くの人は考えているから。

問5

傍線部②「『人間になる』とあるが、そのためにはどのようなことが必要となると筆者は考えているか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、10。

(配点6点)

- ① 「人間になる」ためには、世界には形而上の問題と形而下の問題の両方があることを知り、その一方の認識を深めることが必要となる。
- ② 「人間になる」ためには、世の中の同一の基準で測ることができない問題について、一つ一つ別々の基準で考えることが必要となる。
- ③ 「人間になる」ためには、形而下の問題の考察だけでなく、世の中の様々な価値を理解するために自分の目を洗練させることが必要となる。
- ④ 「人間になる」ためには、世界には自分の生き方について何ら参考にできる知識がないことを知った上で、自分の生き方を模索することが必要となる。
- ⑤ 「人間になる」ためには、自然科学が導き出す答えに優位性があることを忘れずに、形而上の問題についても考究することが必要となる。

問6

傍線部③「二元世界」とあるが、ここではどのような世界のことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、11。(配点6点)

- ① 限界をもつことで一つに決まる正解をもつ自然科学と、自分の人生を納得して生きるために必要な、多様な答えをもつ人文学を融合させたあいまいな世界。
- ② 絶対的な正解があり信憑性のある科学的な認識と、多様な答えをもち、そのそれぞれの答えに優劣をつけることができない形而上の認識が双方向に関係する世界。
- ③ 真理を求めて考察することで一つの正解を導くことができる自然科学と、それしかないと判断できない答えのなさを特徴とする人文学が重なり合う世界。
- ④ 一つの正解しか認めない学校が普及させる認識と、内面性や真理に関する知の一切を各人に委ねる倫理の認識とを一致させることに戸惑う世界。
- ⑤ 形而下の問題について客観的な一つの正解が存在するとしながら、形而上の問題については答えを求めて思考しても唯一の答えの存在を保留している世界。

問7

傍線部(4)「自然主義」とあるが、ここではどういうものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、12。

(配点5点)

- ① 意味や価値への問いに対し自己や種の保存および能力の拡大と繁栄に価値を置く立場から答えを与え、普遍性を自らに認める形而上学の特異な一つの形態。
- ② 個人や社会が抱える意味や価値をめぐる形而上の問題を、自然科学の問題に置き換えて絶対的な一つの答えを人々に与える普遍的な力をもつ世界観。
- ③ 形而上学の貧困と無秩序を打開するために新たに生まれた、自然科学の原理に立脚してあらゆる問題を力によつて解決することを第一とする考え方。
- ④ 精神の領域における問題について自己保存や種の保存の観点から価値や意味を見だし、形而上の問題における相対主義を強力にさせる価値観。
- ⑤ その他の形而上学よりも客観的に正当なものとして広く理解され、形而上学の真理を絶対的な正解のあるものと認識させた画期的な哲学。

問8

傍線部⑤「彼(女)」とあるが、ここではどのような人物のことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

13。

(配点6点)

- ① 絶対的に正しいと言えるような一つの形而上学が確定できず、他の人々の言葉の真偽をよく確かめずに、薦められるままに考えを採用してしまう人物。
- ② 自分の抱える形而上学の問題を解決できる考えでさえあれば、一般的に事実との整合性を欠く考えであるとわかっているものでも採用する人物。
- ③ 自分にとって魅力的に見える考えだけを採用し、自分が採用したという事実がその考えの客観的な正しさの裏付けになると思い込む人物。
- ④ ある考えを採用し、自分と同じ考えに魅力を感じる人々と出会った時に初めて、その考えが一般性と普遍性をもつかどうかについて考え始める人物。
- ⑤ よさそうに見える考えをよく調べずに自分の信条として採り入れ、その考えを同じように採り入れる人間の多さが普遍性の証拠であると考える人物。

問9

本文の内容に合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

14。

(配点6点)

- ① 人文学に触れて形而上の問題について認識を深めるということに関心をもたず、人文学に費やす時間と労力が減ることとは、知的偏向につながる。
- ② 科学は形而上学の真理について問うことも答えることもせずに各人に委ね、科学の活用の方法を指定することもしない。
- ③ 日本人の多くは、形而上の問題は答えがない問題であると考えているので、関係の破断を意味する争いを避け、様々な考えを容認している。
- ④ 絶対的な唯一の真理は存在しないと考える相対主義者は、自分が既に帰属している集団のなかで認められている考え方以外は採用しない。
- ⑤ 絶対的に正しいと言えるような形而上学が確定できないと考える相対主義であつても、いかなる形而上学も採用しないわけではない。

二 次の文章は、飯高伸五『日本人』を問い直す「多様性に寛容な社会にむけて」の一部分である。これを読んで、後の問い（問1〜9）に答えなさい。

第一の用法の民族、つまり言語や慣習を共有する集団という定義に従えば、人は生まれながらではなく、獲得された文化や自己認識を通じて「民族になる」あるいは「民族集団の一員になる」ことができる。また、第二の意味での民族、つまり国籍をもち国家のなかで権利と義務をもっている人々という定義に従えば、**A** 帰化を通じて人は「民族（国民）になる」ことができる。科学的なエビデンスからは、民族が歴史過程や政治過程のなかで構築されたものであることが解明されてきたが、実社会において民族は不変の属性であるかのように本質主義的に実体化され、民族の名のもとで行われる差別、そして紛争や殺戮（さつりく）も後を絶たない。（注1）「日本人っぽくない」ことを根拠とした排除の論理もまた、その一形態である。

国民国家の動向に連動した国民意識の高まりをナシヨナリズムというが、ナシヨナリズムは政治経済的事象のほか、文化的現象のなかでも認められる。近代日本では、明治期以降の国家形成過程やアジア太平洋戦争後の復興期に文化ナシヨナリズムの高まりがあり、人々に**X**のよりどころを提供してきた。例えば、明治期の国家体制の整備を経て、大正末期から昭和初期には様々な国民文化が形成されていったが、民俗学や民族学のなかで「日本人」の起源や日本文化の内実が議論されるようになった。**B**、アジア太平洋戦争の敗戦後、戦後復興が進むなかで、1960年代から1970年代にかけては多くの日本文化論が生まみ出され、その特性が肯定的に評価された。

（2）日本には「日本人」が脈々と住んできたという考え方を単一民族説というが、これは戦後に顕在化していった比較的歴史の浅い文化的自画像である。明治期初期に内国植民地として沖縄と北海道を組み込み、日清戦争以降、台湾、朝鮮半島、南洋群島（ミクロネシア）、満州などの外地（がいち）に帝国主義的拡張をしてみた戦前の日本では、帝国内の周辺民族を取り込んだ「日本人」の起源論がいくつも構想された。愛知県伊良湖岬に流れ着いた椰子（やし）の実から着想を得たという柳田國男による「日本人」の南方起源説、（3）

朝鮮半島と日本列島の人々の祖先は共通であるとする日鮮同祖論などである。一見、多様性に配慮しているようにみえるが、どれも植民地の支配や外地への進出を正当化するために都合よく参照された。

戦後、外地を喪失した日本は、外地との関係を忘却しつつ、北海道から沖縄県までの閉じられた空間を前提として日本という地理のないし政治的領域を構想し、そこに単一民族としての「日本人」がいると認識するようになった。アイヌや沖縄の人々の文化的特殊性が経験的に理解できるにもかかわらず、自分のことを典型的な「日本人」だと思う人々は、彼らを少数派で例外的であるとみなし、マジヨリテイに属するという安心感をもとうとした。単一民族説は外地を喪失した敗戦後の世界のなかで思い描かれた一種の幻想で、他者に非寛容な戦後日本の貧困な想像力を支えている。

⁽⁴⁾「日本人」に実体を付与するために、日本文化論もまた都合よく受容されてきた。曲解された日本文化論を通して、「和」「忠誠」「協調」などを重んじるという「日本人」の類い希な精神性が賛美されることもある。観察や実証が不可能な抽象的な特性によって「日本人」に実体が与えられているとき、よく疑ってみる必要がある。日本が軍国主義の道をひた走っていった戦前には、自己犠牲が賛美されたり、理不尽な軍事作戦が正当化されたりした。太平洋戦争末期、片道の燃料だけを積んで死ぬことを運命付けられた若い特攻隊員は、はかなく散りゆく桜の花に見立てられ、その死は桜の花のイメージと重ね合わせられ、美化された。敗戦後、高度経済成長を経て日本が復興を遂げていく過程で、「日本人」の精神性は賛美され続けた。日本の経営は欧米とは比較にならない集団主義に支えられ、企業成績を著しく伸ばしたとされる。「ジャパン・イズ・ナンバーワン」というわけである。

C、それは過度に本質化された見方であり、日本的経営と集団主義を安易に結び付けることは適切ではない。近年、日本社会における非効率な働き方が見直されているように、日本的経営が卓越しているとはいいきれない。経済情勢の変化に伴う終身雇用の崩壊からも、「家族的」といわれた企業のあり方はさほど強固ではなかったことが白日に晒さらされている。

同様に、集団スポーツの解説で、プレーヤーが「日本人らしく規律を守っている」という説明を耳にすることがあるが、本当にそうなのだろうか。実際のところ「日本人とはそういうものだから」という以上のことは何も言っていない。観察や実証が不

可能な抽象的な特性によって「日本人」に実体が与えられているだけなのである。科学的に「日本人」の特性を論じるならば、歴史や社会のなかに文脈化し、検証可能なたちで提示する必要がある。実際、優れた日本文化論のなかでは、こうした作業が行われてきた。中根千枝『タテ社会の人間関係——単一社会の理論』（1967年）、土居健郎『「甘え」の構造』（1971年）は、日本人と外国人の二分法を前提にしており、キンシツな「日本人」像が温存されているという批判もあるが、発表から半世紀以上が過ぎた現代でも社会分析としての意義を失っていない。中根は「タテ社会」の視座を、終身雇用崩壊後にも温存された上下関係の分析など、現代社会の分析にも適用してみせている。土居の意図を離れて日本社会の「甘え」はよくないものとみなされるようになっていったが、母子関係における甘えは子どもの成長に欠かせない情愛の基盤であり、欧米にはない考え方である。戦後日本では、農業社会から産業社会への転換に伴って、夫や子どものケアを期待されてきた母親像が変化していったが、現代日本の家族をめぐる諸問題を「母（妻）への甘え」をめぐるせめぎあいとして読み解くこともできる。

近年、「日本人」は「スゴイ」のだという話をよく聞くようになった。サイガイ(イ)が起きてもパニックにならずに秩序を保つ人々、スポーツ観戦で日本チームが負けても騒がずにゴミを片付けて帰る人々、外国人観光客が感激するほどの礼儀正しさやおもてなしの作法を心得た人々。こうした人々の姿は、テレビで映し出され、広く消費されている。また「日本スゴイ」「日本人スゴイ」と説く本が多数出版されてジャンルを構成し、ベストセラーにもなっている。こうした現代の動向と戦前の軍国主義の動向との類似性を指摘する声もある。早川(注)タダノリの言葉をかりれば、それは「日本スゴイのデイストピア」、**D** 戦前は軍国主義のなかで妄想され、現代では「嫌韓」「嫌中」など他者への攻撃性とともな妄想される暗黒世界である。

近代日本のなかで「日本スゴイ」「日本人スゴイ」という**Y**の態度は、理不尽や非合理を正当化したり、他者への非寛容な態度を生み出したりしてきた。アジア太平洋戦争の道を歩んでいた頃、大日本帝国は負けるはずのない「神の国」であった。天皇は現人神(あひとがみ)であり、帝国臣民はその赤子(せきし)でやはり特別な存在であった。現代日本では、バブル経済が崩壊した1990年代前半ごろから、それでも「日本スゴイ」「日本人スゴイ」と声高にサケぶメディア表象が増えていった。これは、在日朝鮮人・韓国人

に対するヘイトスピーチなど、差別的な発言や示威行動を伴う排外主義が、実社会においてもサイバースペース上の言論空間においても、顕在化していったのと同時期のことであった。

⁽⁵⁾ 「日本スゴイ」「日本人スゴイ」は戦前の軍国主義の時代に発達した特異な考え方であるとも、現代世界において一部の偏屈な人々が抱く特殊な考え方であるともいえない。冒頭で紹介した「日本人っぽくない」のエピソードが示すように、現代日本において自分が典型的な「日本人」だと思っている人々は、他者への非寛容に容易に陥ってしまう。彼らは「日本スゴイのディストピア」にもまた魅了されるであろう。そして、民族的出自に基づく差別を掲げる排外主義に加担してしまう危険性もある。

(飯高伸五「『日本人』を問い直す 多様性に寛容な社会にむけて」による。出題の都合上、一部中略した箇所がある。)

(注1)「日本人っぽくない」——プロテニス選手の大坂なおみ選手に対して、「日本人っぽくない」と発言した人がいたことを指す。

(注2) 早川タダノリ——「広告の研究者(一九七四)」。

問1

傍線部(ア)と(ウ)と同じ漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、
15
17

(配点6点)

(ア) キンシツ

15

- ① キンコ刑が下される。
- ② 恩師に著作をキンテイする。
- ③ 試合のキンコウが破れる。
- ④ キンキュウの用件で外出する。
- ⑤ 現代詩にキンジトウを打ち立てる。

(イ) サイガイ

16

- ① 彼には天賦のサイノウがある。
- ② ジンサイで起きた事故。
- ③ フサイをかかえて倒産する。
- ④ 岩をハサイしてから運ぶ。
- ⑤ 水稲をサイバイする。

(ウ) サケブ

17

- ① キョウフで体がこわばる。
- ② オンキョウ設備のある家。
- ③ 雨の恵みをキョウジュする。
- ④ おどろきのあまりゼツキョウする。
- ⑤ キョウジが続いて不吉だ。

問2

空欄

A

く

D

を補うのに最も適当なものを、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号は一度しか選べない。解答番号は、A 18、B 19、C 20、D 21。

(配点8点)

- ① また
② しかし
③ ところで
④ なぜなら
⑤ やはり
⑥ そこで
⑦ つまり
⑧ さて

問3

空欄

X

解答番号は、

22

23

Y

を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(配点4点)

X

22

- ① パートナーシップ
- ② プライド
- ③ アイデンティティ
- ④ モチベーション
- ⑤ コミュニティ

Y

23

- ① 付和雷同
- ② 談論風発
- ③ 我田引水
- ④ 面従腹背
- ⑤ 自画自賛

問4

傍線部(1)「民族が歴史過程や政治過程のなかで構築されたものであること」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

24。

(配点5点)

- ① 民族は、地域に根ざす慣習や言語などの文化を共有する人々の集団であるとかつては定義されたが、近代に入ると帰化を通じて国民となった人々の集団という意味に変化したということ。
- ② 民族とは、同じ地域に生まれ育つことで言語や慣習を共有する人々や、同一の国家に生まれ育つことで国民の権利や義務を負う人々の集団である点で、生来もち得た属性であるということ。
- ③ 民族とは、ある時には言語や慣習など文化を共有する集団であり、また国家の国民である人々の集団とされる時もあるので、その定義は歴史や政治に左右されて不明確であるということ。
- ④ 民族とは、地域に長らく根ざす慣習や言語などの文化を共有する人々や、国家の構成員として国民の権利や義務をもつ人々の集団である点で、人が後天的に取得した属性であるということ。
- ⑤ 民族とは、地域で用いられる言語や慣習などの文化を共有し、なおかつ国家の構成員として国民の権利や義務をもつ人々の集団である点で、地域と国家との関係から生まれたものであるということ。

問5

傍線部②「日本には『日本人』が脈々と住んできたという考え方を単一民族説という」とあるが、これについてどのように述べられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は、

25。

(配点5点)

- ① 単一民族説は、明治期以降に拡張した外地を失い、戦後に日本に対する世界からの信頼を回復させるために新たに構想された実体のない考え方である。
- ② 単一民族説は、戦後に唱えられた新しい考え方であり、外地を喪失したことで日本国土への地理的な関心が高まって生まれた文化現象の一つである。
- ③ 単一民族説は、戦後に外地を失って後に構想された歴史的には浅い考え方であり、日本や日本人という観念を初めて実体化した一種の幻想である。
- ④ 単一民族説は、敗戦後にあらためて日本を捉え直し、日本という文化的特殊性をもたない人々が国民意識をもてるよう生み出された考え方である。
- ⑤ 単一民族説は、戦後に外地を失って後に新たに構想された一種の虚構であり、排他的な国民意識の高まりを背景に生まれた文化的現象である。

問6

傍線部③「柳田國男による『日本人』の南方起源説」とあるが、これによってどのようなことを述べようとしているか。

その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

26。

(配点5点)

- ① 日本では、明治の国家体制の整備から外地政策に乗り出した昭和初期にかけて、民俗学や民族学のなかで日本人の起源や日本文化の内実を追究する優れた考察が生まれてきたということ。
- ② 日本では、戦前の植民地支配や外地への進出と拡張を背景に、外地の周辺民族を取り込んだ多くの日本人の起源論が学問的見地から生まれたが、それが当時の国家政策の正当化に利用されたということ。
- ③ 日本では、戦前の植民地支配や外地への進出と拡張を正当化するために、外地の多様な周辺民族を取り込んだ日本人の起源論をでっちあげることが当時の国家政策であったということ。
- ④ 日本では、単一民族説が戦後に顕在化する以前、外地への進出政策を通じて周辺民族を取り込んだ多くの日本人の起源論が出されていたが、実は多様性は疑問視されていたということ。
- ⑤ 日本では、戦前の植民地支配や外地への進出と拡張を背景に、外地の周辺民族を取り込んだ日本人の起源論が生まれたが、これは日本が外地と歴史的に深い関わりがあることを明らかにしたということ。

問7

傍線部(4)「日本人」に実体を付与する」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、27。

(配点6点)

- ① 観察や実証が不可能な抽象的な特性を、現実にかかる個々の具体的な言動や事象に見いだすことで、その特性が「日本人」固有の特性だと証明すること。
- ② 日本文化に備わる他に類を見ない精神性を、いくつもの日本文化論を比較検討することで、その特性が「日本人」に実際に備わっていると判断すること。
- ③ 実証や検証が難しい抽象的な特性について、美しいイメージや物語を国家を通して語り、「日本人」の本質に基づいたすぐれた特性だと宣伝すること。
- ④ 観察や検証が不可能な特性であるすばらしい精神性などを「日本人」固有の本質的特性であるとして具体的に「日本人」を規定すること。
- ⑤ 「日本人」の本質として備わる特性を、現実存在する個々の具体的な事象に対応させることで、その特性のすばらしさや比類のなさを確認すること。

問8

傍線部(5)「『日本スゴイ』『日本人スゴイ』は戦前の軍国主義の時代に発達した特異な考え方であるとも、現代世界において一部の偏屈な人々が抱く特殊な考え方であるともいえない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

28

(配点6点)

- ① 「日本スゴイ」「日本人スゴイ」は、戦前から現代まで様々に形を変えながら、長らく多くの人々に自らを典型的な「日本人」だと認識させてきたものとして、日本社会に不可欠だから。
- ② 「日本スゴイ」「日本人スゴイ」は、理不尽で非合理的な考え方であるが、その根本は古代からずっと他者に対して非寛容な思考をもつ日本の文化に根差しているものだから。
- ③ 「日本スゴイ」「日本人スゴイ」は、理不尽や非合理的を正当化したり、他者への非寛容な態度を生み出したりもする思考として、戦前から現代にかけて広く一般社会に底流しているから。
- ④ 「日本スゴイ」「日本人スゴイ」は、非合理や理不尽を正当化し、他者への非寛容に通じる思考の表れだが、その思考のあり方は古代より人間一般に存在する普遍的なものといえるから。
- ⑤ 「日本スゴイ」「日本人スゴイ」は、日本が戦争やバブル崩壊という社会的危機に陥った際、メディアによって声高に報じられることで、長らく多くの日本人を励ましてきたから。

問9

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

29。

(配点5点)

- ① 民族は歴史や政治過程の中で構築されたものだが、日本では生まれながらに備わった不変の属性と定義されている。
- ② 戦後の文化ナショナリズムの高まりとして多くの日本文化論が生まれ、日本人の精神的美徳が科学的に実証された。
- ③ 高度経済成長期の日本的経営が評価されたこともあったが、集団主義や終身雇用は日本的経営と無関係である。
- ④ 日本社会を「甘え」の観点から捉えた土居の視点は、現代日本の全ての事象を考える際に示唆を与えるものである。
- ⑤ 軍国主義の戦前も現代も、声高に日本を褒めるメディアには、国内の非寛容な排外主義を高める危険性がある。